

岩手教区報

第404号
立教189年8月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597



教会の所在地

主事・布教部長 権谷正一

とても大きい声では言えませんが、私は小学3年生の時、授業中におもらしをしたことがあります。

担任の先生が怖くてトイレに行きたいと言えなかったのです。授業が終わると次は体育の時間なので、友達とは体育館に向かいましたが、私の近くにいる男の子1人と女の子2人がおもらしに気づきました。「あー、バレた。どうしよう。」と思ったのも束の間、女の子2人がそれぞれポケットティッシュを持ってきて床のオシッコを拭き始め、何事もなかったようにサッサと片付けてくれたのです。凄いすよね。その後は誰にも気づかれることなく、いやバレていたかもしれませんが、少なくとも馬鹿にしたり冷やかす人は1人もいませんでした。私にとって、人生が大きく変わるかもしれない局面で、なんと素晴らしい人たちが周りに居てくれたんだらうかと、感謝と驚きの思い出です。

ところがここで終わらないのです。あれから20年以上が経ち、今度は小学校に通う我が子の授業参観にいった時のことです。ある教室で1人の子がおもらしをしました。保護者も大勢いる中ですから、さすがに

子供が拭く状況にはなりませんが、それでも隣りの女の子は心配そうに机を動かしてあげていました。低学年ながら誰1人騒ぎだすこともなく、落ち着いた雰囲気です。授業が進む姿を見て、あの頃の古き良き流れが途切れることなく、今にも通じている感覚を覚え、何とも嬉しくなりました。

さて、土地所にはその地域の生活感や仕事の仕方、時間の感覚などがあります。先に述べた子供たちの人を思いやる心もその一つと言えるかも知れません。こうした地域の人たちに教えるには、どうすればいいだろう？これがその地域にある教会の役割の一つだと思えます。生活感の違う人、気性の違う人に同じ言葉では伝わり方が違うのは当然で、「郷に入れば郷に従え」の如く、相手の心に届くように心を砕き時間をかけて、地域とのつながりを積み重ねていきたいのです。

6月に開催された災救隊教区訓練にて、地元で尊い真実の種を蒔いて頂けたことは、誠に嬉しい限りであります。この真実の種からの素晴らしい実りを楽しみに、これからも勤めさせて頂きたいと思えます。



「地域活動」

若い頃、本部の青年会の研修会で聞いた講師の話が心に残っています。「タテ(直属)でいんねんを切らせて頂き、ヨコ(教区)で徳を積ませて頂ける」という主旨の内容でした。この話が心に刺さり、以後、青年会を皮切りに災救隊、学担、広報部、道友社、布教部、集会とお役目を頂戴してきましたが、どの御用を務める時にも常にこの言葉が背中を押していました。

私は教会長就任後3年程は、車の屋根にスピーカーを取り付けて町中を神名流しし、『天理時報特別号』や手作りののいがけチラシを配布する、布教活動に邁進していましたが、ある頃から「田舎ではこのやり方ではマイナス面はあっても効果はないなあ」と思えてきて、やり方をガラッと変えました。よく「地域に根ざ

した教会」という言葉を聞きますが、知人が多い田舎ほど、その地区、その地域の人たちに認められ信用を得ないと、にいがけの実は見えて来ないことが実感されたからです。

間もなく町内会長より「地区の役員会、総会などで教会を使わせてもらえないか」と相談を受け、「いつでも遠慮なく使ってください」と了解し、以後、地区センターが竣工するまでの10年ほど、地区婦人会、子供会等も含めて、町内会の皆さんの出入りがありました。地区の集会場が無かったために、幾ばくかのにいがけの場をお与え頂きました。何よりも地域のお役に立たせて頂けている喜びがあり、そうした経緯から次第にいろいろな役目を頂戴することになりました。

町内会の書記会計は36年目、行政推進員(区長)は34年目、老人クラブ事務局は30年目、町内会長は4年目に入りました。その間、保育園、小学校、中学校のPTA会長も連続で11年間務めました。お陰で天理教の櫃割の名は町内ではかなり広まったとは感じていましたが、お道そのものを伝えることは容易ではなく、普段の言行で認知してもらえようという気配りしてきました。

そんな中、老人クラブより「講演会をやりたいから櫃割さん神様の話をしてよ」

と嬉しいオファーがあり、これまで二回、私なりの陽気ぐらし講座を勤めました。また、3年ごとのペースで町内会の人たちを対象に、ワゴン車団参を実施しており、これまで30名ほどがおちば帰りし、その全員が別席を運んでいます。

月次祭後、地区内に配布している教会報とお下がりを中心にしてくれる人も増えてきて、身上や事情の守護を「お願いしておいてください」と一言添えて、お供えや神饌を持参する方も出てきました。信仰するとか、信者になるとかというレベルはまだ先ですが、「私は櫃割教です」と言ってくれた言葉を心に刻んで、まだまだ勇んで行きたいと思えます。



行事予定 【8月分】

- 8日 災救隊定例会議(17時)
- 11日 第47回夏の勉強会(9時~12時)
- 29日 学生担当委員会例会(20時)
- 30日 第19回陽気フォーラム(9時半)
- 31日 婦人会例会(10時)



岩手教区青年会(村松義朗委員長)は、7月4日(土)から5日にかけて、青森教区主催で開催された青年会東北ブロック大会に、女子青年2人を含む12人が参加した。

当日はマイクロバスにて岩手を出発し、青森県青森市に到着。大会に先立って行われた教区親善ソフトボール大会に参加し、爽やかな汗を流した。その後青森教務支庁に移動。植田義久・青年会本部委員の講話を聞かせていただき、夜の懇親会では趣向を凝らした催し物で懇親のひとときを楽しんだ。

青森教務支庁に宿泊した一行は、翌5日15時頃盛岡に帰着した。

「東北ブロック大会」参加報告



青年会

「第51回総会」

「第5回講演会」報告



道の教職員の集い(門間道明代表世話人)は7月11日(土)、教務支庁を会場に、「第51回総会」と「第5回講演会」を開催した。総会に先立って、8人が参加して行われた講演会では、講師の小笠原一郎・神賀盛分教会長が「私の履歴書」をテーマに、自身の身上をはじめ、信仰の元一日や教会設立の経緯を話され、信仰のルーツを後世に語り継ぐ大切さを感じた講演会となった。

講演会後に開催された「第51回総会」は、中田祥浩教区主事の挨拶に続いて、会務報告がなされ、昨年度実施した活動の報告と本年度の行事計画などについて活発な協議が行われた。なお、総会の参加者は8人であった。



道の教職員の集い

「第47回夏の勉強会」

【8月11日・12日】

道の教職員の集いは、毎年恒例の夏の勉強会を開催します。多くの小学生、中学生の参加をお待ちしています。

日 時	8月11日(火) 9時集合、12日(水) 8時30分開始
会 場	教務支庁
参加費	1200円(一日のみは600円)
持ち物	夏休みの宿題他学習用具、宿泊に必要な物品。
申込み	門間代表世話人又は教務支庁に8月8日迄。
※	一日のみの参加も可。

「第19回陽気フォーラム」

【8月30日】

テーマ	「バリデーション」
日 時	8月30日(日) 9時受付 9時30分～14時30分
会 場	教務支庁
講 師	巽信行先生(修心分教会長、奈良教区高田支部長)
参加費	1000円(昼食、資料代含)
申込み	各支部長に8月20日迄。
※	詳細は配布チラシをご覧ください。



災救隊

「教区訓練」報告



災救隊岩手教区隊(高橋邦之隊長)は、6月28日(日)、29日(月)の1泊2日、九戸支部・洋野町大野の「おおのキャンパス」において、教区訓練を実施。女子隊員18人を含む59人が参加した。

28日の訓練当日、県内各所から刈払機を持参した隊員らが続々と参集し、午前9時30分から結隊式が行われた。点呼、遥拝の後、権谷正一・九戸支部長が主催者(教区長代理)として現場を提供して下さったお礼と参加者に歓迎の言葉を述べ、続いて牛坂直之・災救隊本部主事、訓練場所の管理者である大野ふるさと公社の奥寺英彦・事務局長がそれぞれ挨拶に立った。

オリエンテーションの後、早速ひのきしん現場に3個班に分かれて移動。気温が上昇する中、十分な水分補給と熱中症に留意しながらの作業となった。

今回の作業は、広大な敷地内の緑地の刈払いとなり、機械と手鎌で草を刈り、熊手で集めて軽トラで運搬するのが主な内容であった。昼食を挟んで午後の作業は午後4時に終了し、初日のみの参加者はここで解散となった。隊員らは入浴後、南平分教会にほど近い明戸地区センターに宿泊。翌29日も前日同様の作業内容となり、午前11時30分、与えられた全ての作業をけが無く無事完了した。

解隊式では、鈴木眞彦教区長が感謝とお礼の言葉を述べ、地域ひのきしんの実践と隊員の士気向上の成果を強調された。その後、炊事を担当して下さった九戸支部婦人会に感謝の拍手が送られ、午後12時30分に解散となった。



「育成に役立つプログラム」報告

教区学生担当委員会(鈴木眞浩委員長)は7月12日(日)、教務支庁を会場に「育成に役立つプログラム」を活用した研修会を開催。担当者ら7人が参加した。

当日は、児玉一也・学生担当委員会育成部委員と本部スタッフの小宮山健さん、片山春絵さんが来庁された。

学生に対して行う育成プログラムの体験を通して、学生層の心をどのように開くのか、他者との意見交換の中でどのようにしてまとめていくのか、そして学生層特有の心理状態をうまく導き、次代を担う者の育成について学ばせていただいた意義深い研修会となった。



学生担当委員会

三陸5人、花巻4人、奥州8人、県南3人、計59人
※のべ95人(28日55人、29日40人)
作業実績
・雑草の刈払い約2000㎡
・刈草運搬約1.5ト
・明戸地区センターの環境整備